

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2013年 8月

「パート1ー贖罪の犠牲 (VIII)」 「キリストが歩まれたように歩む」 「第一天使のメッセージ (1)」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「パートI-贖罪の犠牲 (VIII)」 4

朝のマナ

「キリストが歩まれたように歩む」 6
信仰によってわたしは生きる

現代の真理

「第一天使のメッセージ (I)」 38
三重のメッセージ

力を得るための食事

「コロコロ豆腐とゴーヤ」 46

お話コーナー

「神様の保護」 48

教会

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話 : 0494-22-0465
FAX : 0494-26-5059

【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話 : 088-831-9535

【沖繩集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話 : 0980-55-8136

アクセス

ホームページ : <http://www.4angels.jp>
メール : support@4angels.jp

発行日 2013年7月31日
編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション
〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sozai on front cover;
HighRes on pages 48

自己義は真の義ではない

自分自身を義とすることは真の義ではない。それにすがりつく者は、恐ろしい欺瞞(ぎまん)におちいることになるだろう。今日、多くの者が、神のいましめに従っているといいながら、その心の中には、他の人々に対して流れ出る神の愛を持っていない。キリストは、主ご自身と一体となって世を救うみわざにたずさわるように彼らをお召しになる。しかし、彼らは、「おとうさん、参ります」と言うことだけで満足している。彼らは行かないのである。彼らは、神の働きをしている者と協力しない。彼らはなまけ者である。不忠実なむすこのように、彼らは神に偽って約束をする。教会の厳粛な契約をすることによって、彼らは、神のみことばを受け入れ、それに従うこと、神のご用に自己をささげることが誓った。しかし、彼らは、これを行なわないのである。口では、神の子であると称するが、生活と品性においては、その関係を否定するのである。彼は意志を神に服従させていない。彼らの生活は偽りである。

彼らは、それが犠牲を必要としない場合には、服従の約束を守るように見える。しかし、克己や犠牲が要求されたり、十字架がかかげられるのを見ると彼らはしりごみするのである。そして、義務についての確信は薄らぎ、神のいましめを知りつつ犯すことが習慣となる。耳は神のみことばを聞くことであろう。しかし、靈的知覚力はもはやない。心はかたくなになり、良心はまひしている。

キリストに対してははっきりした敵意をあらわしていないからといって、キリストに仕えていると思ひ違えてはならない。わたしたちは、このように考えて自分の心を欺くのである。時であれ、財産であれ、そのほかどんな神のおゆだねになったたまものであれ、神が神のご用に用いるようにわたしたちにお与えになった物を自分のために用いることは神に敵することになるのである。(キリストの実物教訓 255, 256)

贖罪

パート I - 贖罪の犠牲 (VIII)

XVII. 十字架はサタンに死の一撃を与えた

このお方〔キリスト〕は、サタンに死の一撃を与え、すべての信じる魂の罪を取り去るために十字架上で死なれた (原稿 61, 1903 年)

敵の手中からとりこを奪い取るために、キリストはどのような権利を持っておられたのであろうか。天の御国をおさめる正義の原則を満足させる犠牲を払うという権利であった。このお方は失われた人類の贖い主として、ずるがしこい敵に打ち勝つために、また正しいことへの揺るがないご自分の忠誠によって、ご自分を自分の救い主として受け入れるすべての人を救うために、この地上に来られた。カルバリーの十字架上で、このお方は人類の贖い代を支払われた。こうしてこのお方は、大欺瞞者、すなわち、偽りによって、神の統治に敵対し、人類の墮落を引き起こし、それによって栄光に満ちた永遠の神の王国の忠実な臣民と呼ばれる権利をことごとく失った者の手中からとりこを奪う権利を得られたのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1903 年 9 月 30 日)

十字架上のキリストは、神の律法の違反のために神に対する悔い改めのために一なぜなら、神は許す者をまず悔い改めさせられるがゆえに一人を引き寄せるだけでなく、キリストは正義を満足させられた。このお方はご自分を贖罪として差し出された。このお方のほとぼしる血潮、裂かれた体は、やぶられた律法の要求を満たし、こうして罪が生じさせた深淵に橋をかけた。このお方が肉において苦しめたのは、ご自分の傷つき、砕かれた体をもって、無防備な罪人を覆うことができるためであった。カルバリーの死において得られた勝利は、宇宙に対してサタンの告発の力をとこしえに打ち破り、また神にとって自己否定は不可能であり、したがって人類家族にあつて重要でないとする彼の告訴は沈黙させられた。(原稿 50, 1900 年)

彼〔キリスト〕は、ご自分の十字架を天地の真ん中に立てられた。それはこのお方が闇の力と組み打ちし、征服なさるためであった。このお方は罪人の命の

ためにご自分の命をお捧げになった。そしてこの世の君であるサタンは、追放された（原稿 44, 1901 年）

すべてのユダヤ人の捧げ物が指し示していた偉大な犠牲が、まもなく捧げられようとしていた。ご自分の前にある十字架の時に、救い主は圧倒的な予告をされた。「今こそこの世の君は追い出されるであろう。そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」。このお方は、天から追放された大背教者が、地の中心的な権力であるのをごらんになった。サタンの王座を見ながら、このお方は神のみ座があるべきところにそれが打ちたてられているのをご覧になった。このお方は全人類が、自分たちに反逆を吹き込んでいる背教者を礼拝しているのをご覧になった。この世の住民は、サタンの足元にひれ伏していた。キリストは、「サタンの王座があるところに、わたしの十字架、すなわち屈辱と苦悩の道具が立つ」、と宣言された。（原稿 165, 1899 年）

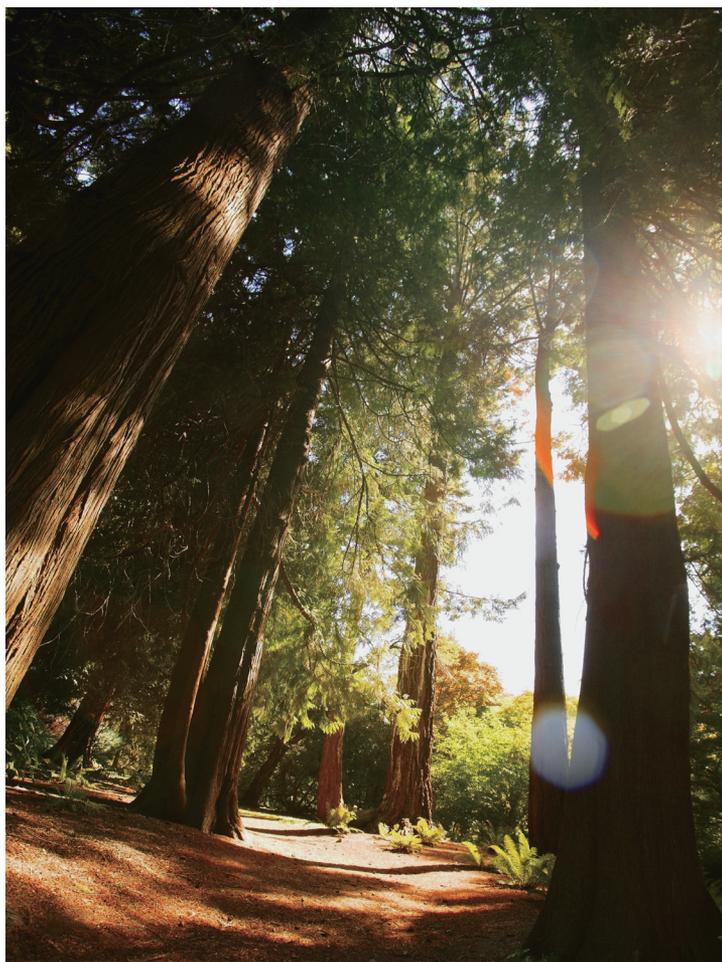
キリストは十字架につけられたが、驚くべき力と栄光のうちにこのお方は墓からよみがえられた。このお方はご自分の掌中に、サタンが支配していると主張する世界をつかんでおられ、そして人類を神への恩寵へ回復された。そして、このお方のみ働きが栄光に輝き成就するとき、勝利の歌が墮落していない諸世界を通じて幾重にもこだました。天使たちも天使のかしらも、ケルビムもセラピムも、勝利のコーラスに加わった。（ユース・インストラクター 1903 年 4 月 16 日）

XVIII. 二度と繰り返されることのない贖罪

十字架上のキリストの死は、死の力を持ち、また罪の創始者であった者の滅びを確実なものとした。サタンが滅ぼされるならば、悪に誘う者はだれもいない。贖罪は、二度と繰り返される必要がない。そして、神の宇宙において、反逆が再び起こる危険性はない。この闇の世において効果的に罪を抑えるものだけが、天において罪を防ぐのである。キリストの死の意義が聖徒たちや御使たちによって理解される。墮落した人類は、世の初めからほふられた小羊がいなければ、神のパラダイスにおいてすまいを持つことはできないのであった。そうであれば、わたしたちはキリストの十字架を高めないのであるか？（サインズ・オブ・タイムズ 1889 年 12 月 30 日）

信仰によってわたしは生きる

The Faith I Live By



8月 「キリストが歩まれたように歩む」

イエス—わたしたちの完全な模範

『彼における』と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。』
(ヨハネ第一 2:6)

わたしたちの前には最高にして最も聖なる模範がある。イエスは、思いにおいて、言葉において、行為において罪のないお方であった。このお方のなさったすべてのことに完全というしるしがついていた。イエスはご自分が歩まれた道をわたしたちに指し示して、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と言われる(マタイ 16:24)。(レビュー・アソシエーツ 1906年4月26日)

キリストはご自身のうちに、神性の満ちみちた完全さと、罪のない人性の満ちみちた完全さを結合しておられる。このお方はアダムが攻撃されたすべての誘惑に会われたが、ご自身の人性にあつて神のみ力により頼まれたがゆえに、これらの誘惑に勝利なさった。この主題は今以上にもっと熟考する必要がある。クリスチャンの目標はあまりにも低すぎる。彼らは……人間のあらゆる偉大さ、人間のあらゆる力にはるかにまさっているキリストの人性のすばらしい完全さをもっとはつきりみわけられるにもかかわらず、表面的な靈的経験に満足しているため、かすかな光しか捕えることができない。キリストの生涯は、墮落した人類が神性と結合し、親しくまじわることによって到達し得ることの啓示である。……

男女は自分に罪の傾向があることについていろいろな口実を設ける。罪は一つの必要悪であり、打ち勝つことのできないものと説明する。しかし罪は必要なものではない。キリストはこの世で幼年時代から青年時代まで生き、その間人からみつくすべての誘惑に会い、これに抵抗なさった。このお方は幼年時代、青年、成人の完全な型であられた。(原稿 31, 1911)

キリストの生涯は、人性が神性にあずかることによって何をすることができるかを示している。キリストが神からお受けになったものはみな、わたしたちも持つことができるものである。だから求めて受けなさい。……あなたの生活を、イエスの生涯にしっかりと結びつけなさい。(キリストの実物教訓 128, 129)

最高のものとすべき宗教

「イエスは言われた『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』これが一番大切な、第一の戒めである。」(マタイ 22:37, 38)

青年は、神の事柄について深い経験が必要であることに気づく必要がある。単なる表面的な働きは彼らにとって何の益にもならない。あなたは神の御言の光を心に入れる必要があるが、それはちょうどともされたろうそくをもって探るように心を探るためである。(手紙 2, 1895)

多くの者が主の側にいると公言するが、彼らは実際にはそうではない。彼らのすべての行為の重点はサタン側にある。わたしたちは自分がだれの側にいるかを、どのような方法によって決定するのであろうか。だれが心を所有しているだろうか。わたしたちの考えはだれと共にあるだろうか。わたしたちはだれに話すのが好きであろうか。わたしたちの心からの愛情と最善のエネルギーはだれのものであるだろうか。もしわたしたちが主の側にいるなら、わたしたちの考えはこのお方と共にあり、わたしたちの最もやさしい思いはこのお方についてである。わたしたちは世を友とはしない。わたしたちは自分の持っているすべてのものと、わたしたち自身とを主に捧げているのである。わたしたちはこのお方の像を帯び、その精神を呼吸し、主のみ心をなし、すべての事においてこのお方をお喜ばせたいと切望する。(教会への証 2 巻 262)

聖書の宗教は他の多くのものの中の一つの感化力ではなく、その感化力は広く行き渡り、他のすべての感化力に充満し、これを支配する最高のものである。聖書の宗教は生活と行為に支配を及ぼすべきである。それは画布の上のそこかしこに刷毛(はけ)で塗った少量の色のようなものではなく、あたかも布地の一本一本の糸が深くしっかりとあせることのない色合いに染まるまで画布が色の中に浸されたかのように、その感化力が生活全体に染み渡ったものである。(手紙 2, 1895)

キリストの宗教は、無数の糸から成り、手練と技術によって緊密に織られた丈夫な織物である。わたしたちは神がお与えになる知恵によってのみ、この織物を織ることができる。自己に頼るとき、わたしたちは利己心という糸を織り込み、型はそこなわれてしまう。(サインズ・オブ・タイムズ 1902 年 1 月 8 日)

一人びとりがまじめに、「わたしは真のクリスチャンだろうか。わたしはクリスチャンの真のしるしを帯びているだろうか。わたしは天来の型に従って品性を完成するために最善を尽くしているだろうか」と自問しよう。(手紙 2, 1895)

純潔な宗教はキリストを模倣することである。(SDA パイブル・コメント [E.G. 柯特・コメント] 6 巻 1101)

世から分離される

「わたしが願うのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しきものから守って下さることです。」(ヨハネ 17:15)

クリスチャンと公言する多くの者は、地面を這って、道にある木の根や木立にその巻きひげを絡みつかせるつたのようなものとしてよく表されている。こうしたすべての者に「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる」とのメッセージが与えられている(コリント第二 6:17)。……あなたの巻きひげは世俗的なすべてのものから切り離されなければならない。……墮落した人々と結びつきながら、純潔を保つのは不可能である。(SDA パイブル・コメンタリ [E.G. 柯什・コメント] 6 卷 1101)

ああ、若い人たちが自分たちは主の園の尊い植物のようになれることに気づくとよいのに。……イエスから栄養を受けるように、愛情という繊細な巻きひげをこのお方に巻きつかせよう。そうして地を這う代わりに、神の光の光線を捉えることができるように顔を義の太陽なるお方に向けよう。ついには神のパラダイスにおいて完全な者として立つことができるように、日々このお方のみかたちに成長し、神のご性質にあずかる者となろう。……

魂を永遠の岩なるお方に固定させなさい。なぜならキリストの内にのみ安全があるからである。(ユース・インストラクター 1893 年 8 月 3 日)

生ける信仰によるキリストとの結合は永続的であるが、他のつながりはすべて消滅しなければならない。……しかしこの結合はなにがしかの犠牲を払わなければならない。……すなわち結合の働きと同時に分離という痛みを伴う働きがなければならない。もしわたしたちがキリストとの結合にはいりたければ、誇り、利己心、虚栄、世俗心—あらゆる形の罪—に打ち勝たなければならない。多くの者がクリスチャン生活の困難を嘆き、また彼らが気まぐれで、変わりやすいことの理由は、彼らがそうした大事な偶像から分離しないでキリストに結びつこうとするからである。(SDA パイブル・コメンタリ [E.G. 柯什・コメント] 5 卷 1143, 1144)

わたしたちは主のみ言葉のなかに定められている条件、一世からの分離—を受け入れるであろうか。……わたしたちの神への献身は、生活に織り込まれ、克己と犠牲に導く生きた原則でなければならない。それはわたしたちの考えの根底であり、あらゆる行為の源でなければならない。これはわたしたちを世に超越させ、世の汚れている影響からわたしたちを分離する。(レビュー・アンド・ヘラルド 1900 年 1 月 2 日)

唯一の安全は正しい思考

「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。」(箴言 4:23)

人は、「その心に思うごとく、その人となりもまたしかればなり」である(箴言 23:7 文語訳)。多くの考えが一日の書かれない歴史を作り、これらの考えは品性の形成と密接な関係がある。自分の考えによほど気をつけなければならない。なぜなら、たった一つの不純な考えも魂に深い影響を与えるからである。一つの悪い考えは、思いに悪い印象を残す。もし考えが純潔で聖なるものであれば、人はそれをもっと大事に育てる。そうした考えによって、霊的な鼓動は活発になり、善を行う力は増し加わる。地をうるおすにあたって一適の雨粒が他の雨粒に道を備えるように、一つのよい考えは他のよい考えのために道を備える。(青年への使命 138,139)

間違った思考の習慣が一度つくると、それは鋼鉄の爪のように思いを締めつける横暴な力となる。(両親、教師、生徒への勧告 402)

思想は放縦に流れるままに放任してはならない。それは制御し、とりこにしてキリストに従わせなければならない。聖なることを思いなさい。そうすれば、キリストの恵みによって純潔となり、真実なものとなる。わたしたちは純潔な思想がもたらす高尚な力を絶えず念頭におかななければならない。どんな人でも安全な道はただ一つ、正しく考えることである。(ミスター・オブ・ヒーリング 476)

わたしたちの思いはわたしたちの思想がとどまっている事柄と同じ水準であるので、もしわたしたちが地上のことばかりを考えるなら天にある事柄に感銘を受けるのに失敗する。神のあわれみと恵みと愛とを熟考することによって大いに益を受けるが、地上のこと、現世の事柄を思いめぐらすことによって大きな損失を招く。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホット・コメント] 6 巻 1100)

たとえわたしたちは、汚れた腐敗した空気につつまれていても、その毒気を吸う必要はなく、天の清い空気の中に生きることができる。真剣に祈って心を神の前に高め、不潔、不正な思いが入らぬようにあらゆる戸を閉じることができる。神の助けと祝福を受けようと心を開いている者は、この世の人よりはきよい雰囲気の中を歩き、天と絶えざる交わりを続けることができる。(キリストへの道 136)

み言葉を調べることによって変えられる

「今生まれたばかりの乳飲み子のように混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それによっておい育ち」(ペテロ第一 2:2)

男も女も青年も、神の御言の研究を怠ってクリスチャンの完全に達することはできない。神のみ言葉を注意深く、綿密に調べることによって、わたしたちは、「聖書を調べなさい。あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである」とのキリストのご命令に、従っているのである(ヨハネ 5:39 英語訳)。この探求は探求者が神なるお手本を綿密に観察することができるようにする。……型であるお方を模倣するためには、これを幾度も綿密に調べなければならない。救い主のご生涯をよく知るにつれて、人は自分自身のうちに品性の欠点を発見する。あまりにもキリストに似ていないために、彼は自分の生活に一大変化がなければキリストに従う者となることができないことを認める。それでも彼は、この偉大な模範キリストのようになりたいとの望みをもって研究する。彼は愛する主のまなざし、その精神をとらえる。眺めることによって彼は変えられる。(安息日学校への勧告 17)

神がすべてのすべてであることを認めないとき、あらゆる人的な哲学は混乱と恥辱を招いている。しかし神によって感動を受けた、尊い信仰は力と高尚な品性を与える。神の恵みとあわれみと愛を瞑想するとき、真理はいよいよ鮮明に理解され、心の純潔と思想の明瞭を望む気持ちはさらに高まり、清められる。きよい思想の純潔な雰囲気にある魂は神のみ言葉を研究し、神と交わり、それによって変化する。真理は非常に大きく、かつ遠大で深く、広く、自分が見えなくなるほどである。心は和らげられ制せられて、謙遜と親切と愛を持つようになる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 449)

聖書は……思いが最も深い問題と取り組み、最も広大な探求に従事するようにこれを訓練する。それは知性を高め、魂を救う。……聖書をあなたの鏡としなさい。それはあなたの品性の欠点と過ちを発見してくれる忠実な探知機となり、すべての良い特性を強める。(原稿4, 1880)

罪の罪深さを示す御言は、人を正しくし、正しく保つ力を人の心に及ぼす。(牧師への証 80, 81)

目を覚まして祈る

「絶えず祈りと願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目を覚ましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈り続けなさい。」(エペソ 6:18)

祈りと目を覚ましていることは、神聖な生活における向上のために必要である。……あなたの唯一の安全は見張り人のように生活することである。つねに目を覚まして祈りなさい。ああ、これは誘惑に負け、世のわなに陥るのを防ぐどれほどの予防策であろうか。(教会への証 2 巻 283)

「気をつけて、目を覚ましていなさい」(マルコ 13:33)。……

まずあなたは目を覚ましているべきである。せっかちでイライラした、気短な話し方をしないように目を覚ましていなさい。自尊心があなたの心に場所を見つけないように目を覚ましていなさい。あなたが悪感情を征服するかわりに、かえってそれがあなたを打ち負かしてしまうことがないように目を覚ましていなさい。あなたが……軽薄また軽率になり、その感化力が命の香りとならず、死の香りとなることがないように……目を覚ましていなさい。

第二にあなたは祈るべきである。実際にその必要がなければ、イエスはこのことをあなたにお命じになるはずがない。あなたが敵の多くの誘惑や、足もとにしかけられている多くのわなに自分だけでは打ち勝つことができないことを、このお方はよく知っておられる。主はあなたが一人でこれをなすようにと放置せず、あなたが助けを得ることのできる道を備えてくださった。それゆえこのお方はあなたに祈るようにとお命じになったのである。

正しく祈るとは、あなたが必要なその事柄のために信仰のうちに神に請うことである。あなたの部屋、あるいは人目につかない静かな場所に行って、イエスのみ名によって助けを御父に求めなさい。自分自身の弱さを意識しながらも、なお神から与えられる力を熱心に望む心からささげる祈りには力がある。熱心で熱烈な祈りは聞かれ、答えていただける。……

気落ちしてはならない。イエスの足下にひれ伏しなさい。このお方は誘惑されたことがあり、誘惑されている者をどのように助けたらよいかをご存知である。……あなたの魂が力を求めて神により頼み、勝利の働きを自分一人にまかされているのではないと確信できるまで、イエスによって神のみ前にあなたの問題を訴えなさい。神はあなたを助けてくださる。天使たちはあなたを見守っている。しかしあなたがこの助けを期待することができる前にあなたは自分の側でできることをしなければならぬ。目を覚まして祈りなさい。(ユース・インストラクター 1855 年 10 月 1 日)

神との心の交わり

「主を待ち望め、強く、かつ雄々しくあれ。(そうすれば主はあなたの心をつよめられる。) 主を待ち望め。」(詩篇 27:14)

世界はかつて見られなかったような緊張につつまれている。娯楽に、金儲けに、権力争いに、生存競争に、心も魂も肉体も恐るべき力にひきずられている。このたけり狂うあらしのさなかに、神は静かにお語りになっている。神はわれわれにその中から出て交われと仰せになっている。「静まって、わたしこそ神であることを知れ」(詩篇 46:10)。

祈りの一ときにおいてさえ、真に神と交わる祝福を受けられない人が多い。彼らはあまりに性急である。彼らは急ぎ足でやってきて、キリストの愛の座に割り込み、聖なる囲いの中にしばらく休息するが、しかし勧告を待ち望む気持ちがない。彼らは天来の教師と共にとどまる時間を持つとしない。そうして重荷を負ったまま働きにかえって行くのである。……

我々にとって必要なことは、神のみ前にちょっとひと休みすることではなくてキリストと直接に交わること、座してキリストと交わることである。(教育 307, 308)

わたしたちは大きな悩みばかりでなく、小さな心配事や困ったことも主の許に持っていく事ができる。何かが起ってわたしたちを妨害したり、悩ませることが起こっても、わたしたちはそれを祈りのうちにこのお方に差し出すべきである。(教会への証 200, 201)

静かに、しかし熱烈に、魂は神を追い求むべきである。隠れたことをご覧になり、心からわき起こってくる祈りにその耳を傾けておられる神から発する感化は芳しく、永続的である。単純な信仰のうちに神との交わりを保っている者は、サタンとの戦いにおいて自分を強め支えるために、神の光の光線を自分自身に集める。(ユス・インストラクター 1898年11月3日)

いつも、主を目の前にあおいで、主に感謝と賛美をささげているならば、わたしたちの信仰生活は常に新鮮さを保つことができる。わたしたちの祈りは、ちょうど友人と語るように、神との会話のかたちになり、神は、わたしたちに個人的に、神の神秘について語りかけてくださるのである。わたしたちは、しばしば、尊いイエスの臨在を身近に感じることもある。……祈りは、サタンの攻撃をかわすものである。(キリストの実物教訓 109, 226)

満ちあふれる喜び

「あなたは命の道をわたしに示される。あなたの前には満ちあふれる喜びがあり、あなたの右には、とこしえにもろもろの楽しみがある。」(詩篇 16:11)

イエスの宗教は喜び、平和、幸福である。(教会への証 5 卷 579)

全天が人の幸福に関心をもっている。わたしたちの天の父はだれにも喜びの道を閉じられることはない。しかし、苦しみと失望をもたらし、幸福と天国への戸を閉じてしまうようなことにふけてはならないとわたしたちを戒めてくださる。……〔世の贖い主〕は、不従順者には決して到達できない、この上ない祝福を与える義務だけをわたしたちが尽くすよう神は求めておいでになる。心の真の喜びは、栄えの望みであるキリストを心の中に形造ることである。(キリストへの道 59)

イエスのうちに宿っている者は、神にあつて幸福であり、楽しく、また喜びに満ちている。和らげられた優しさが声にあらわれ、霊的な永遠の事物に対する敬神の念が行為に現われ、音楽、すなわち喜ばしい音楽が、神の御座から流れてくるままに唇に反響する。これが信心の奥義であつて、それは説明することは容易ではないが、心に感じてこれを楽しむことができる。(教会への証 4 卷 626)

神をみ言葉通りに信じる者に与えられる平安とよるこびは、ことばに言いあらわせない。試練も彼を妨害することができず、悔りも彼を苦しめることができない。自己は十字架につけられる。義務は一日一日重くなり、義務は強くなり、試練は厳しくなっても、彼は、必要なだけの力を与えられるので、決してよるめかない。(青年への使命 90, 91)

こうした経験の持ち主にとって、キリスト教は、生きた浸透力のある原則であつて、生きて働く霊的活力であることがわかるであろう。そこには、新鮮さと能力があり、永遠の青春の歓喜がある。神のことばを受ける心は、水が蒸発してしまう池とか、せつかくの清水を保つことのできない破れた水槽のようなものではない。その冷たい水は、つきない泉からわき出る山間の溪流のようにしぶきをあげて岩から岩へ飛び散って流れて、疲れた者やかわいた者、重荷にあえぐ者を元気づける。(キリストの実物教訓 109)

神のすまい

「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。」
(コリント第一 6:19)

聖書には、われわれの身体に寄せられている神の関心と、これを最上の状態に維持しなければならないわれわれの責任について、非常に美しく印象的な言葉で……言われている。

身体は神が住もうとお望みになっている宮で、それは、高貴な思想の住まいとして純潔に保たれなければならない。……(教育 238)

人は神の宮、神の栄光のあらわれる住み家とならなくてはならないとの知識が、わたしたちの体力を守り、またそれを発育させていくうえに最高の動機とならなければならない。創造主はおそるべく、くすしく人間の身体を造られており、わたしたちがそれを研究し、その必要なものを理解し、これを危害や汚れから守るために自分の責任を果たすように命じられている。(ミストリー・オブ・ヒーリング 247)

神と人に対するわたしたちの第一の義務は、自分を発達させることである。わたしたちは可能な限り最大限の善をなすことができるように創造主から与えられているあらゆる能力を最高度の完全さにまで発達させなければならない。だから身体と精神の健康を確立しこれを持続するために用いられる時間は良いことのために費やされているのである。体であろうと思いでであろうとの機能をも萎縮させたり、かたわにしたりしてはならない。そうするなら、わたしたちは必ずその結果に苦しまねばならない。(健康への勧告 107)

すべての人間に神がお望みになることは、「愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている」(ヨハネ第三 2) とのみ言葉の中に表現されている。

「あなたのすべての不義をゆるし、あなたのすべての病をいやし、あなたのいのちを墓からあがないだし、いつくしみと、あわれみとをあなたにこうむらせ」になるのはキリストである(詩篇 103:3, 4)。……

「すべてのこと」にまぎって神はわたしたちが心身共に「すこやかであるようにと」望んでおられる。そしてわたしたちは霊と肉の健康のために神と共に働く働き人であればならない。(ミストリー・オブ・ヒーリング 82, 266)

正しい習慣の報酬である健康

「わが子よ、わたしの教えを忘れず、わたしの戒めを心に留めよ。そうすれば、これはあなたの目を長くし、いのちの年を延べ、あなたに平安を増し加える。」(箴言 3:1, 2)

自然の法則は神の律法であるということ、すなわちそれは神の十戒と全く同じように神聖なものであるということである。神は、肉体の機能を支配する法則を、身体のすべての神経と筋肉と組織にしるされた。これらの法則の一つでも不注意にあるいは、故意に犯すことは、創造主に対する罪悪である。(教育 233, 234)

精神と肉体は、非常に密接な関係がある。であるから、道徳的、また、知的に高い標準に達しようと思うならば、われわれの身体をつかさどる法則に注意しなければならない。強力で平均のとれた品性を得ようとすれば、知的、体的能力の両方を運動させて、発達させなければならない。青年が、神から与えられたこの驚くべき身体について研究し、からだを健康に保つための法則を研究すること以上に重要な研究がほかにあろうか。(人類のあけぼの下巻 262)

正しい生活習慣によって健康を手に入れることができ、これに利子しかも複利を生じさせることができる。しかし銀行預金よりも大切なこの資本が、飲食の不節制のためや、不活動のために体をさびつかせるままにしておくことによって犠牲にされることがある。わがままな放縦をやめ、怠惰に打ち勝たなければならない。(教会への証 4 巻 408)

健康は品性とと同じく神聖に保護されなければならない。(クリスチャン教育の基礎 147)

わたしたちの肉体はキリストのあがなわれた所有物であるから、わたしたちはそれを勝手に取り扱う自由をもっていない。健康の法則を理解している人はすべて神がわたしたちの身体にたてられたこの法則に従う義務を自覚すべきである。健康の法則に服従することは各個人の義務となるべきもので、その法則を犯すとき、自分自身が苦しまなければならない。わたしたちは自分の習慣や行動に対して自分で神に申し開きをしなければならない。だからわたしたちの問題は「社会の習慣がどうであるか」ではなく、「神がわたしに与えられた住み家をどう取り扱うべきか」である。(ミストリー・オブ・ヒーリング 285,286)

神の律法に従うことによる健康

「からだの訓練は少しは益するところがあるが、信心は、今の命と後の世の命とが約束されているので、万事に益となる。」(テモテ第一 4:8)

神の律法への従順に健康がある。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホト・コメント] 1 巻 1105)

賢人は、知恵の「道は楽しい道であり、その道筋はみな平安である」と言っている(箴言 3:17)。神への献身は健康にとっても、人生の社会関係における楽しい幸福にも有害であるとの印象を抱いている人が多い。しかし知恵と聖潔の道に歩む者は、「信心は今の命と後の世の命とが約束されてあるので、万事に益となる」ということを見出す。彼らは人性の真の楽しみを享受して生きる。世の人たちのように、あまりにもしばしばなにか興奮させる娯楽に気を転じていないと憂鬱や恐怖の思いで浪費した時間を残念に思っ悩まされることもない。……信心は健康の法則と矛盾しないで、これと調和する。もし人々が十戒の戒めにずっと従っていたなら……今の世に充滿しているような病気のわざわざいは見られなかったのである。(健康への勧告 627)

神に受け入れられているという確信は肉体の健康を増進する。それはまた、命の力を弱め、神経症を誘発する疑い、困惑、過度の悲嘆に対して魂を強化する。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホト・コメント] 3 巻 1143)

正しいことをしているという意識は、病気のからだや心にとって最上の薬である。神の特別な祝福は、それを受ける人にとって健康となり力となる。

神のうちにあって静かな、満ち足りた心を持っている人は健康への道にいる。神の御目がわたしたちの上に注がれており、神の御耳がわたしたちの祈りを聞くために開かれているという意識を持つことは本当の満足感を与える。魂のすべての秘密を打ち明けることのできる永遠の友なるイエスが居られると知っていることは言葉に言い表すことのできない特権である。(レビュー・アンド・ヘラルド 1886年3月30日)

勇気、希望、信仰、同情、愛は健康を増進し、生命を延ばす。満足した気持ち、快活な精神は肉体を健康にし精神を強める。(ミストリー・オブ・ヒーリング 218)

健康と幸福のために食す

「だから飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。」(コリント第一 10:31)

ここにあらゆる行為、考え、動機の根底にある原則、すなわち身体的にも知的にも、全身全霊を神の御霊の支配に捧げることが示されている。(教会への証 3 卷 84)

飲食のような生来の行動でも、……「神の栄光のために」すべきである。(食事と食物への勧告 52)

食欲の放縱の力に歯止めをかけるために、神の御子が人のためにほとんど六週間断食なさらなければならなかったほど人類は食欲をほしいままにしていたことを考えると、クリスチャンはキリストが勝利なさったように勝利するためにどれほどの働きが目の前にあることであろうか。ゆがめられた食欲にふけるという誘惑の力は、キリストが荒野において長い断食されたあの言い表わしようのない苦しみによってのみ推し量ることができる。(教会への証 3 卷 486)

人類の最初の両親が食欲の放縱によってエデンを失ったので、エデンを回復する唯一の望みは食欲を断固として否定することによって達せられる。(同上 491)

神はゆがめられていない食欲を満足させる方法を人に豊かにお与えになった。このお方は地の産物—美味で体の栄養になる豊かな種類の食物を人の前に広げておられる。これらのものから自由に食べてよいと、慈悲深い天父は言われる。果実や穀物、野菜を全種類の香辛料や獣脂をいれなくて単純な方法で料理した野菜はミルクやクリームと共に最も健康的な食事となる。それらは……刺激性の食事によっては生じない持久力と知能の活力を与える。(健康への勧告 114, 115)

わたしたちは食事について守るべき明確な境界線を引かないが、果実や穀類や堅果類が豊かにある国では肉食は神の民にとって正しい食物ではない。……もし肉食がかつては健康的であったとしても、今は安全ではない。(教会への証 9 卷 159)

神はわたしたちを一步一步神の初めのご計画、すなわち人間が地からの自然の産物で生きていくようにとのご計画に、導き返そうとしておられることをわたしに幾度も示された。(健康への勧告 450)

有害な放縦を慎む

「愛する者たちよ。あなたがたに勧め。あなたがたは、この世では旅人であり寄留者であるから、魂に戦いを挑む肉の欲を避けなさい。」(ペテロ第一 2:11)

肉の欲を慎まなければ、肉の性質は靈的な性質と戦うようになるであろうと、神の言葉ははっきりと警告している。肉欲的な食事は、健康と平和に戦いを挑む。こうして人間の高い性質と低い性質との間に闘争が起こり、強くて活発な低い性癖が魂を圧迫する。天が認めない食欲を欲しいままにすることによって、人間の最高の利益が危うくされるのである(食事と食物への勧告 357)

不自然な発作的行動を起こさせる刺激物の使用によって健康や品性や生命さえも危険にさらされる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 307)

薬味は有害な性質を持っている。とうがらし、からし、香料、ピクルス、その他これと同様な食物は胃の炎症を起こし、血液を熱くし、不純にする。……

茶やコーヒーは身体組織の栄養とはならない。……

こうした神経の刺激物を常用すると頭痛、不眠、心悸亢進、消化不良、手のふるえ、その他多くの障害をきたす。こうした刺激は生命力を消耗させるからである。……タバコは緩慢で潜行的ではあるが、最も悪性の毒であって、どんな形で、これを用いても必ず身体を害する。その影響が徐々であるだけに、危険は大きく、最初はほとんど気がつかない。……喫煙は酒類に対する欲望を起こさせ、多くの場合、飲酒の基礎を築きあげる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 298～300)

茶、コーヒー、アルコール性飲料に関する唯一の安全策はこれに触れず、味わわず、取り扱わないことである。(同上 307)

真の節制はわたしたちに、害となるものはまったく用いず、健康的なものを賢明に用いることを教えてくれる。(家庭の教育 429)

わたしたちが食欲をほしいままにして健康を害し……ている間は、神の霊が我々を助けに来ることも、クリスチャンの品性を完成させて下さることもできない。(食事と食物への勧告 57)

身体的活動による祝福

「主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた。」(創世記 2:15)

生存の第一の法則の一つは活動の法則である。身体の各器官はそれぞれ割り当てられた働きを持っていて、その力は発達の度合いによって左右される。全部の器官が正常な活動をすると活力と命を与え、不活動は衰弱と死をもたらす。(ユース・インストラクター 1902年2月27日)

エデンの住人に、「それを手入れし、守るために」園の管理が任せられた。……神は、頭脳を活動させ、身体を強壮にし、能力を発達させるために、労働を祝福として人間にお与えになった。知的、また身体的に活動することが、アダムの清い存在の最高の楽しみの一つであった。(人類のあけぼの上巻 25, 26)

身体のすべての器官と能力を平均して働かせることがそれぞれの最善の働きにとって不可欠である。頭脳を絶えず激しく使う一方、体のほかの器官を働かせないならば、肉体と知能の力が失われる。(クリスチャン教育の基礎 418)

すわることが多い習慣の人は天候が許す限り夏でも冬でも毎日屋外で運動をしなければならない。歩行は馬や車に乗るよりも多くの筋肉を働かせるからよいことである。活発に歩くと、肺は拡張しないではいられないから、肺も健康的に活動させることになる。……

新鮮な空気を一杯に深く吸うと肺に酸素を供給し、血液を浄化する。血液はあざやかな色となり、身体各部に生命の流れを送る。正常な呼吸は神経を和らげ、食欲を増進し、消化をいっそう完全にして、深い気持ちのよい眠りに導く。(ミストリー・オブ・ヒーリング 217, 248)

イエスは熱心で忠実な働き手であった。彼ほど重い責任を負った人間はまだかつてなかった。……しかもキリストはいつも健康だった。霊的にも肉体的にも、キリストは「きずも、しみもない」燔祭の小羊によって、代表されておられた(ペテロ第一 1:19)。キリストは、すべての人間が神の律法に服従することによって到達するように神が計画された霊肉の模範であった。(同上 29)

人を避けて休む

「するとイエスは彼らに言われた、『さあ、あなたがたは、人を避けて寂しい所へ行って、しばらく休むがよい。』それは、出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。」(マルコ 6:31)

彼〔イエス〕は、弟子たちに休む間もなく働く必要があるとは強調されなくて、……疲れ果てて弱っている者に向かって、キリストは、「さあ、あなたがたは、人を避けて、……しばらく休むがよい」と言われる。人々の霊的な必要に奉仕することにおいてさえ、いつも働きの重荷と緊張のうちにあることは賢明ではない。なぜなら、このようにして本人自身の信仰がおろそかになり、心と魂とからだの能力に過重な負担がかかるからである。(各時代の希望中巻 98, 99)

睡眠と労働のための時間の調整に関しては、十分注意を払わなくてはならない。わたしたちは休憩の時間、レクリエーションの時間及び瞑想の時間をもつべきである。(アドベンチスト・ホーム 569)

頭脳にとっても体にとっても非常に益となるレクリエーションのやり方がある。……戸外でのレクリエーション、自然界における神のみわざについての瞑想は最も大きな益を与える。(教会への証 4 巻 653)

家の外へ出て、できるだけ戸外で多くの時間を費やすことは健康と幸福に役立つ。……わたしたちは神がその物惜しみしないみ手をもってお備えになったすべてのすばらしいものに心を向けるべきである。神の愛と守りについてのこうした豊かなしるしを心に思い浮かべるとき、わたしたちは欠点を忘れて、快活になり、主に向かって心の内に歌をかなでることができる。(レビュー・アンド・ヘルド 1871年7月25日)

新鮮な空気、日光、節制、休養、運動、正しい食事、水の使用、そして神の力にたよること、これが真の治療剤である。……拘束されなければ……、自然はじょうずにまた賢明に、その働きを仕遂げる。……自然の法則に忍耐強く服従するのは心身の健康という報いを刈り取るのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 97, 98)

彼〔イエス〕は自然界の中で楽しみを見いだし、自然の神秘を理解しようと求めては知識を増して行かれた。彼は神のみ言葉を研究されたが、一番幸福なときは、働き場から離れて野にゆき、静かな谷間で瞑想したり、山腹や森の木々の間で神とまじわることでできるときだった。(同上 30)

われわれは……レクリエーションを本来の意味通りに肉体と精神と靈魂の真の建設の時間としなければならない。(教育 250)

キリストの友との友情

「わたしは、すべてあなたを恐れる者、またあなたのさとしを守る者の仲間です。」
(詩篇 119:63)

仲間づきあいを求めるのは自然である。だれでも仲間を見つけ、あるいは仲間をつくる。友情の力の強さに比例して友が互いに及ぼす善悪の感化力は大きくなる。……

互いに交際を結ぶようになった若い人たちはその交際を祝福とも、あるいはわざわざいともすることもできる。彼らは互いの徳を高め、祝福となり、力となって、態度と気質と知識を向上させることもできれば、あるいは無頓着、不忠実になるがままに墮落的な感化しか及ぼさないこともできる。(教会への証 4 巻 587,655)

キリストに従う者を不信心な者と交わらせ、その娯楽に加えることによって、サタンはもっとも巧みに彼らを罪にさそい出す。……キリストに従う者は罪人と分離し、善をおこなう機会のあるときだけ彼らと交わるのでなければならない。われわれを神から引き離す感化力を持つ人々との交わりを避けるについては、どんなに断固とした態度を取ってもとりすぎることはない。「わたしたちを試みにあわせないで」くださいと祈る一方、できるだけ誘惑を避けなければならない(マタイ 6:13)。(人類のあけぼの下巻 72)

悪友を選んだために、多くの者は美徳の道から一步一步離れて、かつては考えられもしなかったような、不従順と放蕩に陥ってしまうのである。(両親、教師、生徒への勧告 224)

わたしたちは墮落することをこぼみ、悪友がわたしたちの心を腐敗させることのできないところに身を置くことができる。青年は個人的に上の方へ向かってしっかりした足どりで進んでいる友を求めるべきである。(青年への使命 425)

キリストにあがなわれた者の友情は、この世のあらゆる友情よりまさったものである。(キリストの実物教訓 351)

真の友情のあたたかさ、心と心を結ぶ愛は天国における喜びをこの世において味わわせるものである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 333)

あなたの影響の重大さ

「わたしの戒めは、これである。わたしがあなたがを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ 15:12)

この愛はどんな性質のものだろうか。……それはわたしたちの交わる人々を高め、気高くし、清めるために利己的な満足と絶縁し、厳しい自制を実行するような魂への愛である。「また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためにわたし自身をも聖別いたします」(ヨハネ 17:19)。あなたはあなたの交わっている魂を誘惑の道に置くことがないように、また魂の救いについてまじめに考えることをやめさせるような娯楽や浮ついた遊びの道に彼らを招くことのないように娯楽や楽しみに対するあなたの欲望を抑えるほど相手の魂を愛しているであろうか。あなたは若い友人たちがあなたの道案内に従って上のほうへ前進して神に従うように個人的な経験を養っているであろうか。……あなたの愛の性質はどのようなものであろうか。それはあなたと交わる人をキリストのようにする性質のものだろうか。それらは彼らの品性を築くうえで堅固な材木となるような傾向のものだろうか。(手紙 10, 1890 年)

神はご自分に従うすべての者に、真の敬虔の力はこの世においても来世においてもすべての者に益があるということを、その行為と服装と会話において間違いない言葉で生きた証を立てるように命じておられる。(教会への証 4 巻 580, 581)

低級なクリスチャン品性は世において世俗の人の品性よりも大きな害を与える。口先だけのクリスチャンはその名を称えているお方を代表していると告白することによって他の人たちを誤った方向へ導くからである。(手紙 2, 1895 年)

神は愛である。神の内に住む者は愛の内に住む。……天父の愛とやさしいあわれみをほんとうに知るようになった者はみな、どこにおいても光と喜びとを他人に与える。彼らの存在と感化は、交わる人々にとってかぐわしい花のかおりのようである。彼らは、神と天とにつながっているので、天の純潔と気高い愛とは彼らの感化を受けるすべての人々に伝えられる。(青年への使命 365)

あなたは天のエデンから吹いてくるそよ風のような空気で相手の魂を包むことができる。(手紙 2, 1895 年)

恵みの言葉

「いつも、塩で味つけられた、やさしい(恵みの)言葉を使いなさい。そうすれば一人一人に対してどう答えるべきか、わかるであろう。」(コロサイ4:6)

キリストの御名を公言する多くの者が非常に多くの空しい、つまらない言葉を口にしたらどうであろうか。サタンは軽率に語る者につけ込もうと見張っている。……わたしたちが意味のない、愚かな言葉を口にするとき、他の人に同じような会話をほしいままにするように奨励しているのである……わたしたちの唇から出る言葉は純潔な清い言葉だけでなければならない。軽率で、愚かな、無意味な言葉によってどんなに多くの罪が生まれるか誰にもわからない。……あなたの語るどの言葉も、発芽して、良い実か悪い実のいずれかを生じる種のようなものである。(手紙2, 1895年)

愚かな話をする仲間の中にわたしたちがはいったときには、できるだけ、話題を変えるように努力することが、わたしたちの義務である。神の恵みの助けによって、静かに一言注意をするか、または、有益な話題を提供して人々の心をその方に向けるべきである。(キリストの実物教訓313)

神はわたしたちが快活でいるように望まれるが、軽薄はお望みにならない。このお方はわたしたち一人びとりに、「むしろ、あなたがたを召して下さった聖なるかたにならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なる者となりなさい」と仰せになる(ペテロ第一1:15)。神はわたしたちが幸せであることをお望みになる。このお方はわたしたちの唇に新しい歌、神への賛美を置こうとお望みになる。(ユース・インストラクター 1900年12月27)

あなたが友の手をとるとき、あなたの唇と心に神への賛美があるようになさい。これは彼の思想をイエスに引きつける。(ビュー・アンド・ワールド 1889年3月26日)

救い主は、ご自分に従う者たちが、その尊い教えの教訓について語るのをお聞きになり、彼らが聖なる事柄に喜びを持っていることをお知りになるとき、どれほどお喜びになることであろうか。……心の内にあるものが唇からあふれ出る。それは押えておくことができない。神がご自分を愛する者のために備えておられる事柄が会話の主題となる。キリストの愛は魂の内に、永遠の命となってわきあがり、生ける流れを送り出し、それが流れるところどこにでも命と喜びをもたらす水の井戸のようである。(両親、教師、生徒への勧告342)

聖徒の嗣業であるイエスと天についてもっと語らないことにより、わたしたちは多くのものを失っている。わたしたちが天の事柄を深く考えれば考えるほど、ますます新しい光を見、わたしたちの心は恵み豊かな創造主への感謝でますますいっぱいになる。(ハイブル・コメンタリ[E.G. オットマン] 6巻1085)

何かもっと良いもの

「わたしは常に主をわたしの前に置く。主がわたしの右にいますゆえ、わたしは動かされることがない。」(詩篇 16:8)

キリストがわれわれにいかなるものを捨てよとご要求になっても、それは主がその代わりに何かもっとよいものを提供してくださるためである。青少年たちは、一概に悪いとはいえなくても、しかし一番いいものとはいえないような目的や研究や楽しみ持つことがよくある。そのために彼らは人生の最もとうとい目的からそれる。(教育 349)

娯楽や人との交わりが、あなたとあなたの最上の友イエスとの間に割り込むことが決してあってはならない。……生まれつきの性質がなにか利己的な欲望を満たす方向にあなたを引っ張るとき、主を相談役としてあなたの前に置き、「これはイエスを喜ばせるだろうか。これはわたしの最上の友イエスへのわたしの愛を増し加えるだろうか。この道は愛する救い主を悲しませはしないだろうか。このことによってイエスとの交わりから離れることはないだろうか。みんなが軽薄に浮かれ、宗教的な性質もなければまじめなものも何一つなく、神のことを何も考えない快樂のパーティーに、イエスはわたしと一緒においでになるだろうか」と問いなさい。(ユース・インストラクター 1894年7月19日)

クリスチャンには幸福の多くの源があり、どのような楽しみが律法にかなっており正しいものであるかを間違うことなく正確に言うことができる。彼らは思いを浪費することもなければ、魂を墮落させることもないレクリエーションを楽しむことができる。もしイエスと共にいて、祈りの精神を保つことができるならば、彼らは完全に安全である。(キリスト教教育の基礎 84)

光を与えられ、識別力のある思いを持った人は、無害なばかりでなく益になる源泉から、多くの楽しみや気晴らしの手段を見いだすことができる。(教会への証 4巻 658)

レクリエーションの時に、わたしたちは神という源から新しい勇氣とちからをいただいて、生活を純潔と真の徳と聖潔にまで一段と高めることができる。(青年への使命 366)

真に神の愛を楽しんでいる者には喜びと平安がある。宗教は人に楽しみを失わせるように計画されているのではない。キリストの平安、キリストのご臨在という輝かしい日光を受けることほど大きな幸福を生じさせるものはない。(手紙 10, 1895年)

誘惑の戸を閉じる

「世と世にあるものとを愛してはいけない。もし世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。」(ヨハネ第一 2:15)

キリストに従う者たちのクリスチャンのレクリエーションの交わりと、快楽と娯楽のための世人の集まりとの間には著しい相違がある。世人の唇からは祈りや、キリストと聖なる事柄についての言葉が出る代わりに、思慮のない笑いや軽薄な会話が聞かれる。その考えは一般的な楽しい時間を過ごすことである。(両親、教師、生徒への勧告 336,337)

世的な快楽は人を夢中にさせる。そして多くの人は一時的な楽しみのために、天を友とすること、すなわち天国が与えてくれる平和、愛、喜びを犠牲にするのである。しかしこれらの快楽のために選んだ対象は、やがて愛想が付き、不満足なものとなるのである。(アドベンチスト・ホーム 600)

フット・ボールやボクシングのような最も人気のある種類の娯楽は、野蛮行為の学校となっている。……その他の運動競技は、それほど野蛮ではなくても、過度に流れるという点においてはやはり好ましくない。それは歓楽と興奮を好む心を刺激し、そのために有用な働きをきらう気持ちや、実際的な義務や責任を避けたがる傾向を助長する。……こうして、道楽と放縦に向かってとびらが開かれるとき、そこには恐るべき結果が伴うのである。(教育 249,250)

真のクリスチャンは、娯楽の場所へはどこへもはいらず、また神の祝福を求めることのできないような気晴らしをしようとはしない。そのような人は劇場や玉突き場やボーリング場には入らない。彼は陽気なワルツの踊り子と仲間になったり、キリストを自分の心から消してしまうような魅惑的な娯楽にふけったりはしない。これらの気晴らしを弁護する人々に対しては、わたしたちは次のように答える。わたしたちはナザレのイエスのみ名において、そのようなものにふけることはできない。……クリスチャンはだれもそのような場所で死につくことは望まない。キリストがこの世においてになるとき、そのような場所にいることを見られることをだれも欲しないであろう。(アドベンチスト・ホーム 593,594)

もしわたしたちがあえてサタンの領域に踏み込むならば、彼の力から守られるという保証はない。できるかぎりわたしたちは、誘惑者が自分に近づくすべての道を閉ざさなければならない。(祝福の山 148)

天の銀行への預金

「父なる神のみ前に清く汚れのない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つことにほかならない。」(ヤコブ 1:27)

救い主のやさしい同情は墮落し、苦しんでいる人類に対して湧き上がった。もしあなたがキリストに従う者となりたのであれば、あなたはあわれみと同情を培わなければならない。……やもめ、孤児、病人、死にかかっている人々がいつも助けを求めている。ここに福音を宣べ伝える機会—すべての人の望みと慰めであるイエスを掲げる機会がある。苦しんでいる肉体がいやされるとき、……心が開かれ、あなたは天の香油を注ぐことができる。(福祉伝道 26)

信者の群れは、貧しく、無教育で、無名な人たちかもしれない。しかしキリストのうちにあるとき、彼らは、家庭において、近隣において、教会において、また遠い地方において働くことができ、その結果は永遠と同じように遠大なものとなる。多くの若い弟子たちがクリスチャン経験のほんの初歩から一步も前進しないのは、この働きがおろそかにされているからである。イエスから「あなたの罪はゆるされた」と告げられたときに、彼ら自身の心のうちに燃えた火は、困っている人々を助けることによって燃えつづけることができたのである。若い人々にとって危険の原因となり易い不安定な精力は、祝福の流れとなって流れ出る水路へと導くことができたのである。(各時代の希望下巻 112、113)

肉体にも魂にも清新さを与えない娯楽に費やされがちな時間は、困っている人を助けるために費やされるべきである。(教会への証 6 巻 276)

困っている兄弟を助け、真理を宣べ伝える神のみ事業の助けとなるどの機会も、あなたが保管のために前もって天の銀行に送って、預けることのできる真珠である。(同上 3 巻 249)

愛、礼儀、自己犠牲—これらは決して失われぬ。神の選民が死ぬべき体から不死の体に変えられるとき、彼らの親切な言葉と好意は明らかにされ、永遠にわたって保存される。…

…キリストの着せられた義の功績によって、このような言葉と行為の香りは永遠に保たれる。(神のむすこ娘たち 270)

神とカイザル

『ところで、カイザルに貢を納めてよいでしょうか、いけないでしょうか。』……するとイエスは彼らに言われた、『それなら、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい。』(ルカ 20:22～25)

キリストの答えは……質問への率直な答えであった。カイザルの名前と肖像がぎざまれているローマの貨幣を手に持ちながら、このお方は、彼らがローマの権力下に生活しているのだから、神に対する義務と矛盾しないかぎり、ローマの求める支持を与えるべきであると宣言された。しかしその国の法律に柔順に従う一方では、いつでも神への忠誠を第一としなければならなかった。(各時代の希望下巻 50)

われわれは人間の政府を神が定められたものとして認め、合法的な範囲内でそれに従うことを、聖なる義務として教えなければならない。しかし、その要求が神のご要求と矛盾するときは、人間よりむしろ神に従わねばならない。神のみことばをすべての人間の法律にまさるものとして認めねばならない。「教会がこう言う」、あるいは「国がこう言う」ということのために、「主がこう言われる」ということを放棄してはならない。キリストの王冠は、この世の主権者の王冠より高く掲げられねばならない。(患難から栄光へ上巻 68, 69)

神の律法の知恵と権威は最高である。……エホバの十戒はすべての正しくよい律法の基礎である。神の戒めを愛する者は地のすべてのよい法律に従う。(教会への証 1 巻 360)

われわれは、権威を無視するようには求められていない。……われわれはキリストのみ名によって前進し、ゆだねられた真理を擁護しなければならない。もしこの働きを人々から禁じられるような場合には、使徒たちと同じように、「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない」と答えることができる。(患難から栄光へ上巻 69)

わたしたちの王国はこの世のものではない。わたしたちは主が永遠の王国を建てるために天から地上へおいでになるのを待ち望んでいるのである。(教会への証 1 巻 360)

若いクリスチャンと彼らの書物

「最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳と言われるもの、賞賛に値するものがあれば、それらのものを心に留めなさい。」(ピリピ 4:8)

サタンの策略のとりこにならないようにしようと思う者は、魂の通路をよく見張っていなければならない。思いを不純にするようなものを読んだり、見たり、聞いたりしないようにしなければならない。(患難から栄光へ下巻 217)

今日、人気のある出版物は多く、扇情的な話を満載しており、青年に罪悪を教え、破滅の道へと彼らを導いている。まだ若い子供も犯罪に関する知識に長じている。彼らは読みものから悪に導かれる。……不法の種が広くまかれ、その結果、犯罪が発生しても驚くにあたらない。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 425)

小説を読む者は靈性を滅ぼす悪にふけり、聖なるページの美を覆い隠している。それは不健全な興奮を起し、想像がたくましくなり、思いは有用なことに適しなくなり、魂は祈りから離れ、どのような靈的な勤めも行う能力が失われる。(青年への使命 270)

いかがわしい本の表紙を開けてはならない。サタンの文学には悪魔的な魅力がある。それはサタンが宗教の単純な信仰を破壊する強力な武器である。自分は不信仰な書物を読んでも大丈夫だなどと思ってはならない。そうした本には毒ヘビのような毒が含まれているからである。(クリスチャン教育の基礎 93)

青年男女たちよ、あなたがたに真の知識を与える書物、家族全体に助けとなるような書物を読みなさい。「わたしは何の益にもならないで、人々への奉仕の妨げとなるようなものを読むことに尊い時間を費やさなさい。……わたしは軽薄な罪深いものに目を閉じる」ときっぱり言いなさい。(教会への証 7巻 64)

熱心に幾度も聖書を研究すればするほど、それはますます美しいものに思われ、軽い読み物に対する興味がだんだん減っていく。この尊い書物をあなたがたの心にしっかり結びつけなさい。それはあなたがたにとって友人となり、また案内者となる。(青年への使命 272)

心の調べ

「詩とさんびと霊の歌とをもって語り合い、主に向かって心からさんびの歌をうたいなさい。」(エペソ 5:19)

賛美の調べは、天のふんいきである。天が地に交わるときに、そこには音楽と歌—「感謝と歌の声」とがある。……

神のほほえみのもとに、美しく汚れなくひろがっている新しい地に、「明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわった」とある(ヨブ 38:7)。このように、天と思いを一つにする人間の心は、神の恩恵に賛美の歌をもってこたえてきた。(教育 186, 187)

青年男女は……音楽に対して敏感な耳を持っている。サタンはどの器官を刺激したら心を活気づけ、夢中にさせ、魅惑して、キリストを望まないようにすることができるかを知っている。今日の軽薄な歌や通俗的な音楽は彼らの趣味に合っている。祈りに専念すべき時間が楽器に取られている。音楽は悪用しなければ大きな祝福である。だが悪用されると恐るべき災いである。それは興奮はさせるが、クリスチャンが恵みの座にのみ見出すことのできる力と勇気を与えない。……サタンは若い虜を導いている。……彼は上手に魅惑する者であって、人々を滅びにひき寄せている。(教会への証 1 巻 497)

音楽会はもし正しく行われるならば害はないが、しばしば悪の源になることがある。……音楽の才能によって高慢心と見せびらかしたいという野心が育てられることが多く、歌い手たちは神の礼拝についてほとんど考えていない。(手紙 6a, 1890 年)

神への賛美をはっきりした、やわらかな調子で歌うことができるようにだれでもみな声を訓練するようにしよう。……歌うことのできる能力は神の賜物である。これを神の栄光のために用いよう。(教会への証 9 巻 144)

わたしたちの賛美は天において天使の聖歌隊によって補足されるということ覚えていよう。(同上 6 巻 367)

天において天使の聖歌隊と共に賛美歌を歌う者はこの地上において天の歌を学ばなければならない。この歌の基調は感謝である。(同上 7 巻 244)

永続する美

「あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りではなく、かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを、身につけるべきである。これこそ、神のみまえにきわめて尊いものである。」(ペテロ第一 3:3, 4)

他のすべてのことと同じく、衣服においても創造主の栄えをあらわすことはわれわれの特権である。神はわれわれの服装が清楚で健康的であるばかりでなく、また身体に合った似つかわしいものであることをお望みになる。……わたしたちはすべてのことにおいてキリストを代表するものでなければならない。わたしたちの服装はすべての点で清楚であり、つつましく清潔であることを特色とすべきである。……

わたしたちの服装は地味で単純でなければならないが、質の良い、色の似合った役立つものでなければならない……(家庭の教育 443,452)

質素で清楚な衣服は、謙遜な態度とあいまって、若い女性を気高い慎み深い雰囲気包み、それは多くの危険から彼女を守るのに非常に役立つのである。(教育 294)

質の良いものを買って丁寧に仕立てさせることはよいことである。これは節約である。しかしごてごてした飾りは必要ではない。それをほしいままにつけることは神のみ事業のための金銭を自己満足のために使ってしまうからである。……衣服のための出費を節約しよう。(家庭の教育 453)

神だけをお喜ばせることのみ思いを定めるとき、外見の不必要な飾りはすべて姿を消す。(教会への証 4 巻 645)

イエスは義の太陽の輝かしい光線を魂にお送りになる。それは霊的生活に美しさと香りを与える。このお方は柔和としとやかな霊という飾りを品性にお与えになる。それは神の御目に非常に価値あるものである。(ユース・インストラクター 1893 年 3 月 9 日)

美を愛し、それを望むのは正しいことである。しかし神は、われわれが、まず最高の美、すなわち朽ちることのない美を、愛し求めるよう望んでおられる。どんな外面の飾りよりも、価値や美しさにおいて、「柔和で、しとやかな霊」、この世のすべての聖なる者たちが着る「純白で、汚れのない麻布の衣」と比べることのできるもの何もない(黙示録 19:14)。この衣装は彼らを、この世においては美しく、愛される者とし、来るべき世では、彼らが神の宮殿に入るためのしるしとなる。(患難から栄光へ下巻 223)

十分の一は神へ

「地の十分の一は地の産物であれ、木の実であれ、すべて主のものであって、主に聖なる物である。」(レビ 27:30)

主はわたしたちにイエスをお与えになることによって天の最も尊い宝をお与えになった。このお方はわたしたちに楽しむようにと、イエスと共にすべてのものを豊かにお与えになったのである。地の産物、豊かな収穫、金銀の宝はこのお方の賜物である。神は家も土地も食物も衣類も人に所有させられた。このお方は、すべてのものをお与えになるのはご自分であることをわたしたちが認めるように求めておられる。このゆえに神は、「わたしはあなたのすべての所有物のうちの十分の一をわたしのためにとっておく。献げ物や献金のほかにそれはわたしの倉に持参すべきものである」と言われる。(執事への勧告 65)

十分の一の制度における神のご計画は、その単純さと平等さにおいて美しいものである。……だれでもみな救いの尊い働きを前進させるのに役割を果たすことができることを感じる。男も女も青年も主の会計となって、財政上の要求に応じる手段となることができる。「あなたがたはそれぞれ、いくらでも収入に応じて手もとにたくわえておき……なさい」とパウロは言っている(コリント第一 16:2)。(教会への証 3 巻 388,389)

各人は、すべて神の祝福である収入をきちんと調べて、その十分の一を主の聖なるものとして別途資金にとっておくようにしよう。この資金はどんなことがあっても他の用途にあててはならない。それは福音の働きを支えるためだけに用いられるべきである。(執事への勧告 81)

わたしたちの収入の十分の一は「主に聖なる物」である。十分の一と安息日の律法は両方ともその効力が続いているので、新約聖書で改めてその律法が定められていない。(同上 66)

わたしは十分の一制度のことを語るが、それはわたしの心にはなんと不十分に思えることであろうか。なんと軽く見られていることであろうか。はかり知ること、比べることもできない愛と犠牲に対して、数学的な決まりで時間や金銭や愛を比べようとする努力はなんと空しいことであろうか。キリストのために十分の一! あれほどの犠牲を払われたことに対してなんとという貧弱な金額、恥ずかしい報酬であろうか。カルバリーの十字架から、キリストは無条件降伏を要求なさる。……わたしたちのもっているものすべてを神にささげるべきである。(教会への証 4 巻 119, 120)

感謝のささげ物

「各自は惜しむ心からではなく、また、しいられてでもなく、自ら心で決めた通りにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。」(コリント第二 9:7)

わたしたちは、神ご自身のものとして求められる十分の一を神に忠実にささげるべきであるばかりでなく、感謝のささげ物をこのお方の倉へ持参すべきである。神のすべての恵みの初穂、すなわちわたしたちの最上の所有物、わたしたちの最善のもっとも聖なる奉仕を喜びの心をもってわたしたちの創造主にささげよう。(サイン・オブ・タイムズ 1910年11月15日)

主は施しが定期的になされ、ささげることが習慣となり、慈善をクリスチャンの義務として感じるように要求なさる。一つの施しによって開かれた心が、利己的に冷たくなって、次の施しが与えられる前に閉ざされてしまうほど、間をおいてはならない。この流れはたえず流れ出て、慈善行為によって水路がいつも開かれているべきである。(教会への証 3巻 393,394)

宗教と慈善の目的のためにヘブル人に要求された献金額は、彼らの収入の四分の一に及んだ。人々の財産に、このような重税が課せられたのでは、人々は貧困に陥ってしまうと思われるであろう。ところがこの規則に忠実に従うことが、彼らの繁栄の条件の一つであった。(人類のあけぼの下巻 161,162)

ささげ物が神に受け入れられるのはその額の大きさによらない。それは心の目的、すなわちそのささげ物に表わされている感謝と愛の精神によるのである。貧しい人々に、彼らの献げ物があまりに小さいので注目に値しないと思わせてはならない。(執事への勧告 73, 74)

犠牲の行為によって節約された小額は、自己犠牲を要しないでもっと大きな額の献げ物よりも、神のみわざの建設に多くのことをなす。(教会への証 9巻 157, 158)

わたしたちには大事すぎてイエスにささげられないというものは一つもない。わたしたちの手に委ねられた資力のタラントを神にお返しするとき、神はもっと多くのものをわたしたちの手にお与えになる。わたしたちがキリストのためになすすべての努力はこのお方によって報いられ、その御名によってわたしたちが果たすすべての義務は、わたしたち自身の幸福に役立つ。(サイン・オブ・タイムズ 1876年3月9日)

祝福の水路となって

「ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互いを励ますようにし、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではないか。」(ヘブル 10:25)

クリスチャンでありながら、自分自身のうちに閉じこもっていることができると思ってはならない。各人は人類という大きな網の一部であって、あなたの経験の性質と特質は主としてあなたが交わる人たちの経験の質によって決定される。……だから共に集まることをやめないようにしましょう。(教会への証 7巻 190)

多くの者が、祈祷会を無視したり、神の僕が天からのメッセージを伝える集会を欠席して、コンサートに行くのはまったく差支えないと宣言する。あなたにとって、キリストがそこにおると仰せになっているその場所にいることが安全である。……イエスは、「ふたりまたは三人がわたしの名によって集まっているところには、わたしもその中にいるのである」と言われた(マタイ 18:20)。あなたは楽しみを選んで祝福を失う余裕があるのであろうか。(青年への使命 136)

もしクリスチャンが共に交わって、互いに神の愛と尊い贖罪の真理について語り合うならば自分の心がうるおされ、お互いの心がうるおされるのである。(キリストへの道 140)

すべての者は、主のために、何かを語らなければならない。なぜならば、そうすることによって、彼らは恵まれるからである。集会をやめることはしないで、たびたび互いに語り合う人々について、覚えの書が書かれている。残りの民は、小羊の血と彼らのあかしの言葉によって勝利すべきである。……われわれは、集会に来て黙っていてはならない。集会に来て神の誉れと栄光と力について語る人々だけが、主に覚えられる。このような人々の上に神の祝福がくだり、彼らは新しい力を受ける。(初代文集 215,216)

わたしたちは自分を祝福の水路に置くあらゆる機会を活用すべきである。……キャンプミーティングのような教会の集会、家庭教会の集会など、魂のための個人的な働きがなされる機会はすべて神が前の雨と後の雨とを与えるためにお定めになった機会である。(牧師への証 508)

神の助けの手

「そして彼らに言われた、『全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。』（マルコ 16:15)

「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。」「神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである」（ヨハネ 3:16, 17）。神の愛は全人類をつつんでいる。キリストは、弟子たちに任務を与えて、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」と言われた（マルコ 16:15）。（教会への証 6 巻 273）

キリストのお与えになるのちに入るように定められた者はみな、同胞の救いのために働くように定められたのである。彼らの心はキリストの心と一つになって鼓動する。キリストが魂に対して感じておられるのと同じ渴望が、彼らのうちにもあらわされる。み働きにおいてすべての者が同じ所を占めることはできないが、すべての者はそれぞれ占めるべき所と働きがあるのである。……あらゆる才能をみ国の発展とみ名の栄光のために用いなければならない。（キリストの実物教訓 280）

キリストはご自分の奉仕に青年を用いることをお望みになる。このお方は宣教師を必要としておられる。全世界の未開の伝道地は天に向かって働き人を求めている。もし青年が神に自らを差し出すなら、このお方は彼らに知恵と知識を与えて奉仕のために彼らを準備させて下さる。もし彼らが神に自分をささげるなら、このお方は彼らを栄えの器としてこれに御霊という尊い油を注ぎ、それを他人に分け与えさせることがおできになる。神の助けの手、これこそもしあなたが自分自身を神にお任せするなら、あなたがなり得るものである。（ユース・インストラクター 1903年1月1日）

何をも惜しまず、奉仕のために自らを神にささげる者にはだれでも測り知れぬ結果を生ずる力が与えられる。こういう人のために神は大きな仕事をなさるのである。（ミストリー・オブ・ヒーリング 132）

年配の人にも、青年男女にも、神は上から力をお与えになる。改心した心、改心した手、改心した足、改心した舌をもって、また祭壇の上から取られた燃えている炭に触れた唇をもって、彼らは主人であるお方の奉仕に出て行き、着々と前方へまた上方へと前進し、その働きを進行させこれを完結する。（ユース・インストラクター 1902年2月13日）

つねに仰げ!

「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。」(ヘブル 12:2)

数年前、ノルウェーのクリスチャニヤからスウェーデンのゲーテボルクへ旅行したとき、この上なく栄光に満ちた日没を見る特権に恵まれた。その美しさを描写するのに言葉は不十分である。夕日の最後の光は空を横切って金色、銀色、紫色、薄黄色、深紅に照り輝き、それはだんだん輝きを増して空の上方へのおぼけて行き、ついに神の都の門が開け放たれて内部の栄光が放射されているように見えた。そのすばらしい輝きは二時間の間冷たい北国の空を照らし続けた。それは大芸術家なる神が移り変わる空の画布に色を染められた絵であった。わたしたちが旅を続けていく地上の家々や、岩の多い平原や、けわしい山や、寂しい森林の上に、神が微笑みかけているように思えた。

恵みの天使たちがこうささやいているように思えた、「見上げなさい。この栄光は神のみ座から照り出ている光の一条にすぎない。地上のためだけに生活してはいけない。見上げなさい、そして信仰によって天の家郷の住居を眺めなさい」。この光景はわたしにとってはノアに与えられた約束の虹のようで、それをわたしに神の変わらない守りについての確証をつかませ、忠実な働き人を待っている休息の港を待望させてくれるのであった。……

神の子として、たえず見上げ、信仰の目をキリストに注いでいることはわたしたちの特権である。たえずキリストから目を離さずにいると、主の臨在という日光が心の部屋に満ちあふれる。魂の宮におけるキリストの光は平安をもたらす。魂は神にあって安定する。困難や心配はすべてイエスにゆだねられる。主を仰ぎ見つけるとき、主のみかたたちが心に刻みこまれ、毎日の生活に表わされる。……

愛する若い方々よ、たえずキリストから目を離さずにいなさい。そのときはじめて、あなたはひたすら神の栄光に目を留めることができる。イエスは永久にあなたの光であり、命であり、平安であり、保証である。(ユース・インストラクター 1902年10月23日)

決して離さないみ手

「あなたの神、主なるわたしはあなたの右の手をもってあなたに言う、『恐れてはならない、わたしはあなたを助ける。』」（イザヤ 41:13）

旅人がガイドについてせまい道を進んで行くと、アルプスの最高峰のまぶしい雪に太陽がきらきらと輝いていた。……旅人にとってその道はまったく初めてであったが、彼はガイドを信頼し、何の恐れもなくその足跡に従っていた。突然彼はためらった。というのはこの大胆な登山者が、せまいけれども深い割れ目を飛び越えて、手を差し出し、この手につかまって歩を進めて渡るように言ったからである。旅人はまだためらっていたが、ガイドは再び保証して、「わたしの手を取りなさい、この手は決して離さないから」と言って、彼に従うように励ました。

愛する青年たちよ、どのような人間のガイドよりも偉大なお方が忍耐と自己犠牲の高いところを越えてご自分に従うように呼びかけておられる。その道はやさしい道ではない。……その道のいたるところにサタンは不注意な者の足下に落とし穴を作っている。しかしわたしたちのガイドなるお方について行けば、わたしたちは全く安心して歩くことができるのである。なぜなら、この道は主の足跡によって清められているからである。その道は険しく荒れているかもしれないが、主がそこを歩かれたのである。その道をわたしたちが進みやすいように主の足がいぼらを踏みつけてくださったのである。わたしたちが負うように要求されている重荷はどれも主が自ら負われたのである。主に親しく接するとき、光と望みと力がもたらされる。主はご自分に従う者について「彼らはいつまでも滅びることがなく、また彼らをわたしの手から奪い去る者はない」と言われる（ヨハネ 10:28）。（ユース・インストラクター 1902年5月1日）

わたしたちは一度に一日だけ生きるのである。一生の働きを数時間でするにおよばない。わたしたちは不安をもって将来を眺める必要はない。なぜなら神はわたしたちが毎日勝利者となることができるようにしてくださっているからである。（レビュー・アンド・ハラルド 1889年3月26日）

生きた信仰を今日働かせることによって、わたしたちは敵を征服すべきである。今日神を求め、神の臨在がなければ満足しないということを決心しなければならぬ。わたしたちは今日が自分に与えられる最後の日であるかのように目を覚まし、働き、かつ祈るべきである。（教会への証 5巻 200）

もし今日神との関係が正しいならば、キリストが今日来られても、あなたは備えができています。（原稿 36, 1891年）

研究 2

三重のメッセージ



第一天使のメッセージ

Part I

終わりの時

「ダニエルよ、あなたは終りの時までこの言葉を秘し、この書を封じておきなさい。多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう。」(ダニエル 12:4)

「ダニエルは、第一天使のメッセージがわたしたちの世界に宣布されるときに、終わりの時まで封印された自分の証を担うという自分の分を受けるのであった。」(牧師への証 115)

「封印されていた書は、黙示録の書ではなく、終わりの時代に関するダニエルの預言の一部であった。」

聖書は、『ダニエルよ、あなたは終りの時までこの言葉を秘し、この書を封じておきなさい。多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう』と述べている(ダニエル 12:4)。書が開かれたときには、『もう時がない』との宣言がなされた(黙示録 10:6 参照)。ダニエルの書はいまや封印を解かれ、そしてキリストによってヨハネに啓示されたことは、地上のすべての住民に伝えられなければならない。知識が増し加わることによって、人々は、終わりの時代に立つ準備ができなければならない。」(セクレッド・メッセージ 2 巻 105)

「わたしたちは今、聖霊の力によって、この終わりの時代のための偉大な真理を宣布しなければならない。すべての人が警告を聞き、自分の決定を下すのはそう先のことではない。そのとき、終わりが来るのである。」(教会への証 6 巻 24)

「わたしたちには無駄にする時間はない。終わりは近い。しかし今は世的な所有物に埋蔵されているあなたの資金というタラントを、主の働きのために譲り渡す機会はまだ与えられている。」(ビュー・アンド・ヘアル 1902 年 5 月 27 日)

「教会は恐るべき多くの罪に対して責任がある。なぜ光を持っている人々はそ

の光を他人に与えるために熱心に努力しないのであろうか。彼らには終わりが近いことがわかっている。彼らは日々、大勢の人々が神の律法を犯しているのを見ている。そして彼らはこのような魂が不法のうちには救われることができないことを知っている。それでもなお彼らは、自分たちが裁きの時には顔と顔を合わせて対面しなければならない男女の魂よりも、自分たちの取引、自分たちの農場、自分たちの家屋、自分たちの商売、自分たちの衣服、自分たちの食卓のほうに関心があるのである。真理に従うと公言している民は眠っている。もし彼らが目覚めているならば、今のように安穩とはしてはられないはずである。真理の愛が彼らの心のうちで死滅しつつある。彼らの模範は、とても彼らが地上の他のどの人々よりも先進的な真理を持っていると世が納得するようなものではない。彼らがまさに、日ごとの生きた体験を持ち、神にあつて強くあるべき時に、彼らは弱々しく、ためらいがちである。彼らが思いと魂と声と筆と時間と金銭をもって他人に仕えるべき時に、彼らは説教者の支持に頼っている。」(教会への証 5 巻 457)

終わりの時とはいつか？

「またオリブ山ですわつておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、『どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか』。(マタイ 24:3)

「キリストは、弟子たちが、彼らの質問に答えてご自分が彼らにお与えになったご命令を、彼らが理解できないということをご存知であった。『いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか』。……このお方の答えの中で、二つの出来事—エルサレムの滅亡と世の終わ—は一つに混ぜ合わされた。キリストがこれらの出来事を混ぜ合わせされたのは、ご自分の弟子たちに対する憐れみからであった。こうして、彼らが自分たちでその意味を研究し、明らかにするようになさったのであった。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1898 年 12 月 27 日)

「地上の万物が終わりに近づく時に、時のしるしを見分けることのできる忠実な者たちがいるであろう。信仰を告白している多くの者たちが、その行いによって信仰を否定している一方では、最後まで耐え忍ぶ残りの民がいるのである。」(患難から栄光へ下巻 236)

「しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」(マタイ 24:13, 14) 「それをまいた敵は悪魔である。」

収穫とは世の終りのことで、刈る者は御使たちである。」(マタイ 13:39)

「最後の福音のメッセージの偉大な驚くべき働きが、今、かつてなかったほどに実行されなければならない。世は、わたしたちの書物や刊行誌にあるみ言葉の伝道的な働きによって、真理の光を受けなければならない。わたしたちの出版物は万物の終わりが間近であることを示すべきである。わたしはわたしたちの出版所に、旗を掲げよ、それをさらに高く掲げよと述べるように命じられている。第三天使の使命を、全世界が聞けるように宣布しなさい。『ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある』ことを世が見られるようにしなさい。わたしたちの出版物に、全世界に対する証人としてメッセージを伝えさせなさい。」(ビュー・アンド・ヘラルド 1908年7月30日)

「これに関連して、わたしの思いは1843年と1844年の再臨信徒たちの活動を振り返る。そのときには、多くの戸別訪問がなされ、神のみ言葉の中に語られている事柄を人々に警告するために倦むことのない努力が払われた。わたしたちはあのように忠実に第一天使の使命を宣布した人々よりさらに大きな努力を払っているべきである。わたしたちは急速にこの地上歴史の終末に近づきつつある。そしてイエスが本当にまもなく来られることをわたしたちが悟っているのであれば、かつてなかったほど働くために立ち上がるであろう。わたしたちは人々に警告を発するようにと命じられている。そしてわたしたち自身の生活において、わたしたちは真理と義の力を前面に示すべきである。世はまもなく、ご自分の律法が破られた偉大な立法者と対面することになる。不法から服従へと転換した者たちだけが、許しと平安を望むことができるのである。」(ビュー・アンド・ヘラルド 1913年6月12日)

七つの教会の時代による終末

「この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである。……こう言った、『あなたが見ていることを書きものにして、それをエベソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、ヒラデルヒヤ、ラオデキヤにある七つの教会に送きなさい』。(黙示録 1:3～11) (ラオデキヤ＝「民の裁き」)「またわたしに言った、「この書の預言の言葉を封じてはならない。時が近づいているからである。」(黙示録 22:10)

「主イエスは、象徴を用いて、キリストの来臨までに起ころうとしている事柄をヨハネに明らかにするために、力強い御使を遣わされた。彼は七つの教会の益のために、教えられたことを書に記すようにと命じられた。この書き物を今、わた

したちは黙示録の書に保管してきた。しかし、この書は、実にわずかな人々にしか理解されていない。その中には終わりの時代のためのメッセージが記されているのであって、わたしたちはこれらの預言を大いに熟考すべきである。

聖句によって聖句を説明すること—これがわたしたちの生きている時代に対して完全に目覚めているわたしたちのすべての牧師たちのなすべき働きである。主は牧師として働くご自分の僕を導いてくださる。このお方は彼らの知らない方法へと彼らを導いてくださる。彼らは地の暗いところに命のともし火を高く掲げ、そしてわたしたちの王の来られるのを早めるのである。」(ビュー・アノド・ハルト 1907年2月14日)

「七つの教会の名は、西暦紀元の異なる時代における教会を象徴している。七の数字は完全を表し、これらのメッセージが時の終わりまで及んでいることを象徴している。また、用いられている象徴は、この世界歴史におけるそれぞれ異なる時代の教会の状態を表している。」(患難から栄光へ下巻 290)

「同じように、神が愛されたヨハネに将来の教会の歴史をひも解こうとしておられたとき、このお方は、七つの教会を象徴している七つの燭台の間を歩いておられる『人の子のような者』を彼に現してくださることにより、ご自分の民に対する救い主の関心と保護の確証を彼に与えてくださった。ヨハネは教会の地上の権力との最後の大争闘を示されたが、またその一方で彼は忠実な者たちの最終的な勝利と解放を見ることが許された。彼は教会が獣とその像との死闘に入り、その像の礼拝が死の刑罰をもって強制されるのを見た。しかし、戦いの噴煙と喧騒のかなたを眺めたとき、彼はシオンの山に小羊と共に立つ一団を見た。彼らは獣の刻印の代わりに、『額に記された御父の名』を持っているのであった。そしてまた、彼は『獣とその像とその名の数字とにうち勝った人々が、神の立琴を手にして立って』、モーセと小羊の歌をうたうのを見たのであった。」(教会への証 5巻 752, 753)

聖所真理による終末

「わたしが神の聖所に行って、彼らの最後を悟り得たまではそうであった。」(詩篇 73:17)

「彼は言った、『二千三百の夕と朝のまでである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』。」(ダニエル 8:14 英文訳)

「ここまで、預言に指示されたことはみな、驚くばかりに成就した。そして70週が紀元前457年に始まり、紀元34年に終わることが、疑いの余地なく確定

した。この年代から 2300 日の終わりを見いだすことは、難しいことではない。70 週、すなわち 490 日が 2300 日から切り取られると、あとに 1810 日が残る。490 日が終わったあとで、1810 日もまた成就するはずであった。紀元 34 年から 1810 年たてば、1844 年になる。この大いなる預言の期間が終わったところで、『聖所は清められる』と神の天使はあかししたのである。こうして、聖所の清め—それはキリストの再臨の時に起こるものと、ほとんどすべての人が信じていた—の 때가、はっきりと指示された。」(各時代の大争闘下巻 15, 16)

「ウィリアム・ミラーと彼の仲間、初期の弟子たちと同様に、自分たちが伝えているメッセージの意味を、十分に理解してはいなかった。長い間、教会内で確立されてきた誤りのために、彼らは預言の重大な部分を正しく解釈することができなかった。したがって、彼らは、世界に伝えるために神からゆだねられた使命を宣言したけれども、その意味を取り違えて、失望を味わうに至った。」(各時代の大争闘下巻 45)

「こうした信者たちに、最初の弟子たちの場合と同様に、試練の時には理解できなかったことが、後に明らかにされるのであった。彼らが、『主が彼になされたことの結末』を見ると、彼らは、誤りの結果試練を受けたとはいえ、神の彼らに対する愛の御目的は着実に成就していたことを知るのであった。彼らは、神が『いかに慈愛とあわれみとに富』んでおられるかということ、そして『主のすべての道はその契約とあかしとを守る者にはいつくしみであり、まことである』ということ、尊い体験によって学ぶのであった。」(各時代の大争闘下巻 48)

「第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。」(黙示録 10:7)

「第七の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、大きな声々が天に起って言った、『この世の国は、われらの主とそのキリストとの国となった。主は世々限りなく支配なさるであろう』。……諸国民は怒り狂いましたが、あなたも怒りをあらわされました。そして、死人をさばき、……『……滅ぼして下さる時がきました』。……そして、天にある神の聖所が開けて、聖所の中に契約の箱が見えた。また、いなずまと、もろもろの声と、雷鳴と、地震とが起り、大粒の雹が降った。」(黙示録 11:15 ~ 19)

「『天にある聖所のひな型と影とに仕えている』地上の幕屋の奉仕において、至聖所は、大贖罪の日、すなわち型としての裁きの日であり、また聖所の清めのために取っておかれた日のみ開かれたのであった。であるから、『天にある神の聖所が開けて、聖所の中に契約の箱が見えた』という宣言は、二三〇〇日の終わり、すなわち一八四四年に、キリストが贖罪の最後の働きをするためにそこ

へ入れられたときに、天の聖所の至聖所が開かれたことを指し示している。信仰によって自分たちの大祭司の後に従った人々は、このお方が至聖所でご自分の働きを始められたときに、契約の箱を見たのであった。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1905年11月9日)

「大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め。』(黙示録 14:7)

すべての忠実な子らは終わりを悟る

「ルターは次のように言った。『わたしは、今後三百年もすれば必ず、審判の日が来ると確信する。神は、この邪悪な世界を長く忍ぶことはなさらないであろうし、また、おできにならないのである。』『悪虐な王国を打ち砕く大なる日が近づいている。』

『この古びた世界は、終末から遠くない』とメランヒトンと言った。……

『主の再臨を考えることは、わたしには最も楽しく喜ばしいことである』とバクスターは言った。『彼の出現を愛し、祝福された望みを待ち受けることは、信仰のわざであり、聖徒の特質である。』『死が、復活の時に滅ぼされる最後の敵であるならば、この最後の完全な勝利が与えられるキリストの再臨を、信者たちがどんなに熱心に待望し、そのために祈るべきであるかがわかるのである。』『この日こそ、すべて信ずる者の贖罪のすべての働きと、彼らの魂の願望と、努力のすべてが完成されるのであるから、すべての信者は、この日を熱望し、待ちかまえていなければならない。』『主よ、この祝福された日を早めてください。』これが使徒時代の教会の希望であり、『荒野の教会』の希望であり、また改革者たちの希望であった。」(各時代の争闘下巻 390, 391)

わたしたちが生きている時代

「万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。」(ペテロ第一 4:7)

「なお、あなたがたは時を知っているのだから、特に、この事を励まねばならない。すなわち、あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか。そして、宴楽と泥酔、淫乱と好色、争

いとねたみを捨てて、昼歩くように、つつましく歩こうではないか。あなたがたは、主イエス・キリストを着なさい。肉の欲を満たすことに心を向けてはならない。」(ローマ 13:11～14)

「わたしたちは終わりの時代に生きている。速やかに成就している時のしるしは、キリストの再臨が間近いことを告げている。わたしたちが生きている時代は、厳粛で重大である。神の御霊は、徐々にではあるが、確実に地上から取り去られつつある。災いと裁きはすでに神の恵みをさげすむ者たちの上に降りかかってくる。地や海の災害、不穏な社会情勢、戦争の恐怖は不吉な兆しである。それらは迫りつつある事件を最大規模で予告している。悪の代理人たちは自分たちの力を結託して、強固になっている。彼らは最後の大きい危機のために強くなりつつある。大きな変化がまもなく、わたしたちの世界で起ころうとしており、そして最後の動きは急速なものとなるのである。

世の中の事態は、騒然とした時がわたしたちのすぐそこまで迫っていることを示している。新聞は近い将来に恐ろしい紛争が起こるという兆しで満ちている。大胆な強盗が頻繁に起こっている。ストライキは日常茶飯事である。窃盗や殺人がいたるところで犯されている。悪魔にとらわれた人間が男女や小さい子供たちの命を奪っている。人間は悪徳でのぼせあがり、あらゆる種類の悪がはびこっている。

敵は正義をゆがませることに成功してきた。そして人間の心を利己的な利益に対する願望で満たしている。『公平はうしろに退けられ、正義ははるかに立つ。それは、真実は広場に倒れ、正直は、はいることができないからである』。大都市では、大勢の人々が、ほとんど食べ物も、屋根も、衣服もない貧困と悲惨の中で生きている。しかしその一方では、同じ都市の中に、心の望み得る以上を所有し、贅沢に暮らし、自分たちの金銭を、豪華な調度品をそろえた家や、個人的な装飾品、あるいはさらに悪いことには肉欲的な食欲、酒、タバコ、またその他、脳の力を破壊し、精神のバランスを崩し、魂を低下させるものに費やしている。あらゆる形態の圧制や強奪によって、人間が巨額な富を積み上げている一方で、飢えた人類の叫びが神の前に上っている。」(教会への証 9 卷 11, 12)

「イエスは彼らに近づいてきて言われた、『……あなたがたに命じておいた小さいのを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである』(マタイ 28:18)。「地上における神のみわざが閉ざされる終末の時には、聖霊の導きにより、献身した信徒たちのささげる熱心な努力に、神の恵みの特別なしるしが伴うのは事実である。……終わりの時まで聖霊はまことの教会に臨在するのである。」(患難から栄光へ上巻 54, 55)

(48 ページの続き)

んでもご覧になることのできるお方です。どうして、このような守り主が共におられるのに、こわがる必要があるでしょうか？「これは主があなたのために天使たちに命じて、……あなたを守らせられる」(詩篇 91:11)。しかし、神さまご自身が、わたしたちを守ってくださることを考えると、もっとうれしく、さらにすばらしいですね。このお方は、わたしたちにそのことをしっかり確信(かくしん)してほしいと思って、これ以上、こわがる理由をのこさないために、三回もそのことを言われました。「あなたを守る者はまどろむことがない。見よ、イスラエルを守る者はまどろむこともなく、眠ることもない。主はあなたを守る者……である」(詩篇 121:3-5)。これ以上、このお方は何を言うことができるでしょうか？

では、もしあなたが夜に目がさめてしまって、静けさの中でさびしく感じたら、このお方になんと言いますか。「わたしは信頼します、こわがりません」と言おうではありませんか。

コロコロ豆腐とゴーヤ

〔材料〕

ゴーヤ	1/2 個
木綿豆腐	1 丁
塩	小さじ 1/2
昆布だし粉末	少々

〔作り方〕

1. 木綿豆腐を水切りします。
2. ゴーヤを半分に取り、中の種を取って 2, 3 ミリの千切りにし、塩(材料外)を軽くふります。
3. 木綿豆腐を 1.5 センチくらいの角切りにして、フライパンに油を入れ、きつね色になるまで焼き色をつけながら、塩と昆布だしで味をつけます。
4. きつね色になったところで、ゴーヤの水気をしぼり、フライパンの豆腐に加えます。
5. ゴーヤにしんなり火が通ったら、出来上がりです。

さっぱり塩味の夏の一品です。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)



【公開放送】 <http://www.4angels.jp>

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



神さまの保護

「主はあなたの足の動かされるのをゆるされない。あなたを守る者はまどろむことがない。」(詩篇 121:3)

ときどき、小さい子供が、夜に目がさめて、一人でちょっとこわく感じる場合があります。それは、暗いからではありません。なぜなら、ほかの人がだれか一緒にいて、話したり、まわりで動いたりしていれば、暗くてもぜんぜん気にしないからです。しかし、こわいと思うのは静寂(せいじやく)、つまりみんながぐっすりと寝ているときのいつもと違う静けさです。

みんな?いいえ!あなたをいちばん愛(あい)しておられるお方は、いつもあなたを見守(みまも)っておられます。あなたを心にかけてくださるおかたはけっして眠(ねむ)ることがありません。「あなたを守る者はまどろむことがない」。このお方はいつもそこにいらして、あなたを一瞬たりともひとりにしませんし、どこかへ行ってしまわれることもありません。とても暗くても、このお方にはまったく関係ありません。なぜなら、「あなたには、やみも光も異なることは」ないからです(詩篇 139:12)。そして暗い間ずっと、このお方は「あなたを守」られます。あなたを傷つけたり、あるいは



こわがらせたりするものからでさえも守ってくださり、あなたが安全に、静かに、神様の与えてくださるこちよい眠りにつくことができるようにしてくださいませ。

このお方は「あなたを守」られる。あなたを守るお方がどのようなお方か考えてみてください!力強い神さま、なんでもおできになって、な